
小さかった頃のある日のあるおはなし。

十六夜 あやめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さかった頃のある日のおはなし。

【Nコード】

N4582R

【作者名】

十六夜 あやめ

【あらすじ】

小さい頃のぼくらは純粹で無垢な少年・少女だった。毎日が新鮮だった。そんなぼくらのある日のおはなし。

「ねえ、誠くん。」

まぶしいオレンジ色をした夕日に照らされながら、ゆのは微笑み言った。

「わたしのことすき？」

僕は彼女のその笑顔を見て、答えた。

「好きだよ。好きだったよ。これからもずっと好きだよ。」

「うれしいな。」

とん。

彼女はずないでいた手を離すと、僕の腰くらいある扉の上に軽々と飛び乗った。

とん。

とん。

とん。

まるで小鳥のようだ。細い堀の上を跳ねてゆく。
小さな身体が宙に浮くたびに髪がふわっと舞う。フリルの着いた
服が風にやさしくなびく。

いまにも飛び立つ小鳥のように、流れるような軽やかなステップ。
このとき。この瞬間。

それは夢のような美しい光景だった。

「わたしもずっとすぎ。ねえ誠くん。」

「なに、ゆの？」

彼女は沈んでゆく夕日を眺めながら言った。

「いろんな場所にいこうね。朝から晩まで。そうだな、ずっと波の
音が聞こえる町なんかいいな。三日もいると、頭の中にまで波の打
ち寄せる音が聞こえてくるようなところ。その町を離れてもしまら
くのあいだ波の音が聞こえるの。」

北のさいはてなんかもいいかも。一年中雪と氷に覆われた町。夜になるときれいで巨大なカーテンのようなオーロラが見たいな。そして、春も夏も秋も冬もないような、一年中ただ暖かいだけの場所と一緒にゆっくりお昼寝したいな。知らない子供たちと添い寝もいいな。」

「じゃあ、いこう。北へ。南へ。東へ。西へ。」

彼女があんまりにも嬉しそうに笑うから、つい僕は喋ってしまふ。

「最後にたどり着くのは山の奥深くがいいな。そこで三カ月くらいゆっくり過ごすんだ。あたりは山ばかりだから、秋なんかがいいな。きつと紅葉がきれいで、空には大きくてまん丸な月が浮かんでいるんだ。隣のお家まで一キロくらいあるのがいい。誰にも邪魔されなからね。どうかな？」

「すてき。すごくいい。」

とん。

とん。

とん。

さらに軽やかに跳ねる。

「風が吹くと花が揺れて、まるで踊っているような場所。朝日が昇ると雲海が見られて、その中を鳥たちが泳ぐの。うん。すごくいい。」

とつてもたのしそう。この世界にはこんなところあるのかな?」

僕は笑顔で首を縦に振った。

街灯が灯される。また僕らは一歩大人に近づいてゆく。

「ねえ、誠くん。」

「なに、ゆの?」

「なんでもない。」

「そう。なら、いいんだ。もうそろそろ降りたら?」

僕は彼女に手を差し伸べる。彼女はその柔らかな手で僕の手を掴み、飛び立った。

軽い。彼女は宙に浮いている。いや、飛んでいる。そしてすぐに僕の胸の中に降り立った。

「ねえ、誠くん。」

甘い声。やわらかな髪。柑橘系の甘酸っぱい香り。

「なに、ゆの?」

「すぎ。」

「うん。じってる。ぼくも好き。」

「わたしもじってる。」

ああ、この感じは、どきどきする気持ちは、いったいなんなんだろう？

なんて呼べばいいのだろう？

風が吹く。

髪がゆれる。

胸が弾む。

心臓の鼓動が彼女に聞こえそうなくらい大きくなる。

「ねえ、誠くん。」

「なに、ゆの？」

「早く大人になりたいね。」

「うん。きつとすぐだよ。」

「あとどれくらいかな？」

「たぶん十年くらいだと思っしょ。」

「急ごう、誠くん。」

彼女は言った。

「おかあさんがご飯を作ってたってる。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4582r/>

小さかった頃のある日のあるおはなし。

2011年10月10日01時05分発行